

福島第一原子力発電所現地確認報告書

1 確認日

令和7年9月26日（金）

2 確認箇所

- ・ 固体廃棄物貯蔵庫第10棟（図1）
- ・ Dタンクエリア（図1）

3 確認項目

- （1）固体廃棄物貯蔵庫第10棟の運用状況
- （2）Dタンクエリア連結弁への駆動部設置状況

4 確認結果の概要

（1）固体廃棄物貯蔵庫第10棟の運用状況

廃炉作業から発生する瓦礫類の屋外一時保管を解消するため、固体廃棄物貯蔵庫第10棟が設置・運用されている。

第10棟はA棟、B棟及びC棟の3棟で構成されており、第10-A棟は令和6年8月23日から、第10-B棟は令和6年10月29日から、第10-C棟は令和7年5月15日から運用が開始されている。東京電力によれば各棟のハーフハイトコンテナは12×9段積みで保管するとのことであり、遮蔽のため、表面線量率が高いコンテナは中心に設置する他、コンテナ設置後、最上部に遮蔽蓋を設置するとのことである。

本日は、当該貯蔵庫における運用状況及び廃棄物の保管管理状況について確認を行った。（前回確認：令和7年5月22日）

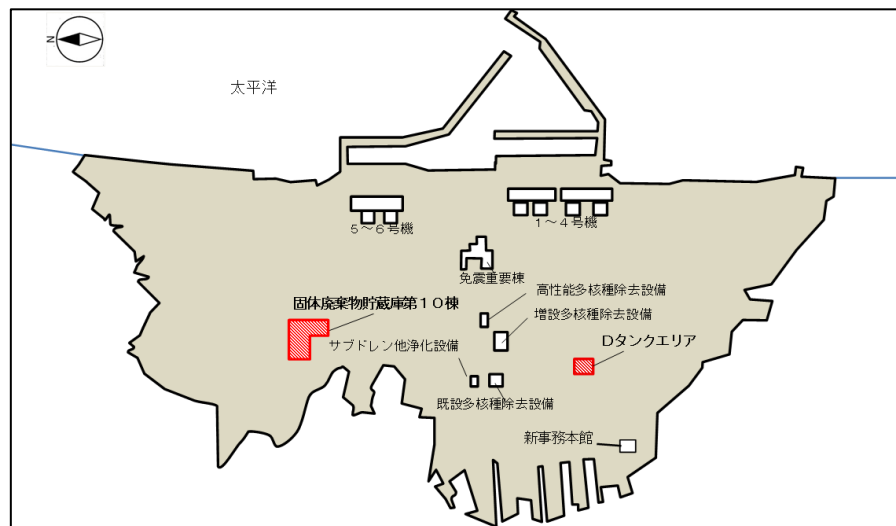
- ・ 各棟は施錠されており、コンテナの搬入作業の実施はなかった。（写真1）
- ・ 貯蔵庫周辺に10ftハーフハイトコンテナ及び20ftハーフハイトコンテナが複数仮置きされていた。（写真2）
- ・ 確認した範囲において、コンテナの腐食や廃棄物の飛散・流出等の異常は見受けられなかった。

（2）Dタンクエリア連結弁への駆動部設置状況

Dタンクエリアでは、令和3年2月13日及び令和4年3月16日に発生した本県沖を震源とする地震によってタンクが滑動し、タンク同士を接続する連結管の一部でメーカー推奨値を超える変位が生じた。東京電力は、漏えい防止の観点から、貯留用のタンクについて当該連結管を取り外し、連結弁に閉止フランジを取り付ける措置を講じており、運用上タンク同士を接続する必要のあるタンクについては、地震時に自動で連結弁を「開」から「閉」にする駆動部を設置する措置が講じられた。

本日は、連結弁に設置された駆動部の設置状況を確認した。（前回確認：令和6年3月21日）（写真3）

- ・エリア内の41基のうち9基のタンク間（計7カ所）に駆動部が設置されていた。（写真4）
- ・駆動部を確認したところ、7箇所とも連結弁は「開」となっていた。（写真5）
- ・エリア内に地震計が設置されており、地震計の周りは接近注意の掲示があるなど、設備への接触等を防ぐための措置が講じられていた。（写真6）
- ・確認した範囲において、タンクや関連設備の破損等の異常は確認されなかった。



（図1）福島第一原子力発電所構内概略図



（写真1）
固体廃棄物貯蔵庫概観



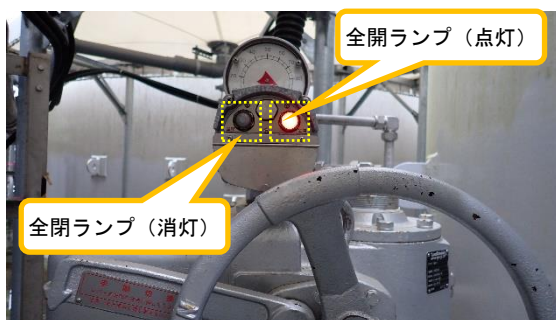
（写真2）
コンテナの状況



(写真3)
Dタンクエリアの概観



(写真4)
駆動部設置状況



(写真5)
駆動部の弁表示状況
(全開ランプが点灯している)



(写真6)
地震計の設置状況

5 プラント関連パラメータ等確認

本日確認したデータについて、異常値は確認されなかった。